

Capo. 5 1-2IL (G)
Capo. 3 ホルマンド

C

風が吹いたよ

★
 シャーラララララララララ シャーラララララララララ
 休日の夜の雨が 今日ほ 晴れたよ
 シュールルルルルルルルル シュールルルルルルルルル
 寒い日の 終わり告げる 風が吹いたよ **
 夕暮れも近い 午後 薄陽の中
 車を停めて 丘の上の公園
 たくさんの 黒い雲 吹き飛ばすように
 西からの 涅槃吹き 上着の背にたまる
 そびえたつ 風車の 回る音も 聞こえない
 鳴りやまないのは 風
 手にした モバイルに 取り込んだ 動画も
 聞こえないのは たしか 風

1-2IL + オープンD

(★ ~ ** くりかえし)

君は 回る 風車の 影を 縄跳びに して
 10回 跳しては 疲れて 座り込む
 フードを 被った 幼い 子供たち
 マネを しては 嬉しそうに 笑う

見下ろす 海岸に 繋がれた ボートも
 左右に 揺らすのは 風
 手にした モバイルに 取り込んだ 動画も
 揺らしてるのは たしか 風

(★ ~ ** くりかえし)

Capo. D 1-7弦(G)
Cyo. 0. オープンD

G

こんなことでいいのかな

G Em C D G Em C D

^G仕事帰りの手袋とマフラーが暑くなって

^C押し込んだカバンが ^G妙に膨らんできて

^G電車帰りで脱いだ ^Dコートも ^{Em}網棚に忘れてしよの

^C頭を抱える ^Gと ^{Am}ころで ^C季節の ^D変わりを知る

^{Em}桜が咲く ^{Am}前に ^Dひと足 ^{B7}かけ先には

^{Em}感じる ^{Am}春の訪れ ^Dこんな ^Gことでいいのかな

^Gモノトーンの ^{Am}枝には ^C少し ^Dずつ ^{D7}色が ^Gつく

^Gまだ ^{Am}少し ^C寒くても ^Dせに ^{D7}春が ^Gまってくるんだ

1-7弦 + オープンD

花粉症で目が痒くて鼻もムズムズしてきて

分厚いマスクの土にジョーグルまでして

洗濯物も外に干せずに暖かい陽差しあつても

部屋干しになる辛さに季節の変わりを知る

桜が咲く前にひと足かけ先には

感じる春の訪れ こんなことでいいのかな

モノトーンの風景に少しずつ色がつく

まだ少し寒くてもせに春がまってくるんだ

いつかまた出会えたら

いつかまた出会えたらいいね

その時はお互いに変わっているだろうか

今日の日が来ることは前から

わかっていたはずなのに やっぱり寂しい

別れの3月 少し離れるだけで

しばらく会えないと思うのは何故だろう

これまで一語にいた時間が

全て思い出になるなんて

別れの言葉は言いたくない、

感謝の言葉も照れくさいけど

いつかまたきっと話しあえる

その時はお互いに通じあえるだろうか

これまでずっと過ごした時間が

楽しかっただけに やっぱり寂しい

別れの3月 とてむ辛いのに

綺麗に別れたいと思うのは何故だろう

これまで一語にいた時間が

全て思い出になるなんて

別れの言葉は言いたくない、

感謝の言葉も照れくさいけど

Capo. 3 1-7弦 (E₂)
Capo 1 オープンD

Ch

春時雨

E_m D E_m E_m D E_m E_m D E_m E_m D E_m

^Gさっきまで晴れていたのに ^D手にした ^{E_m}傘 ^{A₇}広げた時は ^{D₇}

^Gアスファルト濡らした ^Dので ^{B₇}なく

^{E_m}流れる雨に ^D変わっていた

^{E_m}もしかしたら自分が ^D気づかずにいるだけで

^{A_m}もうすでに嫌われているのかも ^Dしれない、

^{E_m}人の心を見ようと ^D色々気にしすぎていると

^{A_m}見えたりも人が ^G見えてきてしまう

^Dそれは良くないこと ^{E_m}

^{E_m}春時雨 打たれるしかない ^D

^{E_m}じっとガマンするしかない ^D

^{E_m}そのうち降りやみ ^Dまた晴れてくる時 ^{E_m}

^{E_m}いたすら待ってるしかない ^D

1-7弦 + オープンD

昨日のことばかり覚えてしまおう 昔あることがキツキツ

何故あの時 あんなふうに

言われたんだらうなと

もしかしたら自分がわかっている、たいてい

もうすでに周りの人は知っているのかもしれない

下手に繕うとしても わざとらしいだけで

知られたくないこと 知られるたいてい

それも良くないこと

春時雨 打たれるしかない

じっとガマンするしかない

そのうち降りやみ また晴れてくる時

いたすら待ってるしかない

Capo. 6 1-7弦(G)
Capo. 4 ホ-7=D

C#

春 彼岸の旅

C D G C D G D

G Em Er D
寒さが緩んで 過ぎやすくなる
D D7
嵩張る外套 着ていくこともなく
G Er Er D
雪のないところへ 出掛けてみよう
D G
準備もそこそこ 気軽な旅だ

Er C D G
昼と夜の長さ 同じにたり
Er C D G
明るくなった夕方 散歩でいる

C D G Er
つくしが顔出す 土の道を
C D G
厚底の靴で 踏み締める
C D G Er
冬の間 鈍った 五感か
C D G
よみがえる 嬉しい 感じる

1-7弦+ホ-7=D

C D G C D G

桜の開花が 隣に始めている
そいうにはあの頃 別れる人たちと
ブルーシートに 紙皿並べて
冷たいお酒 交わしたの思い出

暖かい陽射し 時々陰るたい
砂混じりの風 首すくめ目をつぶらせる

モクレンの花咲く 古びた茶屋に
駆け込みおもうに 逃げ込ん
ほたもろこしあん 目の前の店で
和菓子をハイフにつくひとく

らひい

* 声のない語らひい

静かに時を刻む

これまでじっくりあなたの身になって

考えたことは一度もなかった **

自分のためだけに

未熟な私慮ってくれた

あの時それ以上言わなかったのは

考えることを教えてくれたから

自分で考える力を付けると

何も言わなくて背中を伝えた

川に漂う小船に乗って

旅立ち姿が目に映る

簡素ないつもの言葉だけで

ちよとそまで行くよな口ぶり

あふれる思いが

とめどなく流れてくる

あの時それ以上言わなかったのは

傷つくことを防いでくれたから

自分で立て直す力を付けると

何も言わなくて背中を伝えた

* ~ **

Capo. ♪ 1-2L (D)
Capo. 2 オフ2D

F

西 ^

En G En A En G En A En

A- G A- G
西へ向かい 早春の 東海道

A- G A- G En A
車窓からふと見たら 関ヶ原 雪景色

D En
ふるさと行くのぞみ号

A D
降りる頃はすっかり晴れていたよ

D En
懐い 在来線に

A D
スニーカーと艾に 急ぎ 乗り込む

En A En A
いつからきてたかたろう

En A En A
長居するところもなくなリ

♫ D En
ヒュールルルルルルルル 晴れた空 流れる雲

En D
ヒュールルルルルルルル 瀬戸内の風浴びて

D En
ヒュールルルルルルルル 里山にふっかる雲

En D
ヒュールルルルルルルル 彼岸西風浴びながら

★★

1-2L オフ2D

少ない車両に 気後れして座れず

ドアのそばに立って 車内を見下ろす

向かい合わせのボックス席

様々な人 乗り合わせているよ

どこか平和な風景

心落ち着いて 緊張 解ける

いつからきてたかたろう

方言が 新鮮に聞える

(♫ ~ ♫ くりかえし)